

貴重な経験

高度ポリテクセンターの尾添史朗さんからリレートークを引き継ぎました、ポリテクカレッジ小山の芹澤幸一です。尾添さんとは訓大のときの同期で、学生寮でにぎやかに生活していた仲間でもあります。定期試験前には、よく寮の図書室で一緒に勉強をした？ことも記憶しています。卒業後はお互い雇用促進事業団に就職。尾添さんは当時の安芸総訓、私は宮城技能開発センターと離ればなれとなったのですが、昨年やっと近隣の施設となりとてもうれしく思っています。

さて、私は4年間ポリテクセンター宮城でお世話になり、その後昨年までの3年間、日本障害者雇用促進協会の国立職業リハビリテーションセンターに勤務しておりました。ここでの経験は、私にとってとても貴重な3年間でした。そこでそのときのことについて少し紹介させていただきます。

そこでの訓練は、聴覚、肢体、視覚に障害をもつ方々が対象であり、私が担当した機械加工科と機械製図科の訓練生は、職種の関係から、聴覚と肢体に障害をもつ訓練生がほとんどでした。福祉の専門的な知識を持ち合わせていない私にとって、一番困ったことは、なんといっても聴覚障害者とのコミュニケーションでした。着任して、訓練生に私を紹介してもらったときのこと、「この方が今度こられた芹澤先生で…」と話しながら、胸元で両手を小刻みに動かして、手話でやり取りをしているのです。テレビで手話をしているのは見たことがありましたが、目の前でやり取りをしているのを見るのは初めてで、自分が彼らとコミュニケーションを取ることができるのか、また彼らの中に入れていけるのかとても不安になりました。そんなとき、周りの先生方がとても親切にいろいろとアドバイスをしてください

ました。そこで聴覚障害者とのコミュニケーションの方法は、手話だけではなく、五十音を五本の指で表す指文字、筆談、口話（口を大きくゆっくりと動かすこと）等があることを知りました。手話のできない私は、訓練生との会話や授業等を筆談で行いました。これは本当に時間がかかり、この大変さから逃れるために、一日でも早く指文字を覚えたい。そして指文字と口話で対応するようにしました。それでも一語一語指で表すのは大変で、間違えることがあれば、ことばのはじめからやり直さなければならぬために誤解を招くことも少なくありません。そうすると、必然的に手話を少しでも多く覚えなくてはという気持ちになり、周りの先生方や聴覚障害の訓練生たちから手話を教えてもらい、一語一語覚えていきました。そんなことで必要に駆られ、また覚えたいという興味もありましたので、2、3ヵ月後には指文字、手話、口話、筆談などを取り混ぜて何とか会話ができるようになったかと思います。聴覚障害者とのコミュニケーションの体験談を紹介してもらいましたが、私がこの3年間でさまざまな障害をもつ方々と出会ったことが、なによりも貴重な経験でした。

さて、私が紹介させていただく次の方は、大分県で職業訓練の指導をされている、栗林仁さんです。栗林さんとの関係は、大学の学生寮の部屋で一緒に生活をしていた先輩で、また同学科の先輩でもあり大変お世話になった方です。学生寮では後輩と夜食に生卵入りのチキンラーメンをよくごちそうになりました。あのとき食べた味は、今でも忘れられません。大学を卒業してからは、まだ一度もお会いしておりませんが、お変わりないでしょうか？

それでは栗林さんよろしくお祈りします。

北海道でゴルフ

職業訓練大学校建築13期の高松氏から年賀状を
 いただいて、『リレートーク』...、何だと気にもし
 ないでいたら正月明けて、早速電話がきた。20年
 ぶりくらいの声だけど声も話し方も変わってない。
 私は化学系だったが、学生時代、不思議なことに
 建築系の人たちとの付き合いが多かった。数ヵ月
 前にも、久しぶりに同期の野上氏と待ち合わせを
 してだいぶ飲んだ。野上氏は、民間の住宅会社に
 勤務している。勤務先によっていろいろ状況に違
 いがあるようだ。

この技術誌にしても、われわれ、公設試関係に
 いるものにとっては、なじみがない。これを機会

に、公設試にも...

ところで、何を書こう？

4月半ばだというのに北海道ははまだ雪の中、5月
 上旬のゴルフコンペは大丈夫だろうか？ 北海道は
 ゴルフ環境では恵まれているみたいで、料金も、平
 日だと6,000円くらいで比較的良好なコースが回れ
 る。土、日でも12,000円くらいだから、やはり北
 海道は恵まれているんでしょう。

毎年、「今年は10回以上は行くぞ！」と意気込む
 のだけれど、結果として、6～7回くらいがいいと
 こみたい。スコアも「100切るぞ！」といっ
 てはみても、なかなか切れないでいる。目標にこだわり



があって、それを目指すというのはなかなか良いみたいだ。

今は、トレーニングの最中。腹筋運動20回、1日に1回ずつ増やしていく、そうするとたいした負担もなく40回くらいはいけるようになる。40歳を過ぎるとあちこちがたがきているみたいで、急な運動は危険である。先日も、雪割（早く雪を解かすためにやること）をやっているとき、腰がズキッとした。1週間は、痛かった。

体重は、45kgと学生時代とさほど変化はない。話は、ゴルフにもどるが、体力がないとボールは飛んでいかない。たまに、良いショットをして2打目の場所にいってみると、さほど飛んでない。30mも差を広げられていることもよくある。悔しい。しかし、これは、体力、筋力の差であろう。これを補うには、基礎トレーニングしかないようだ。長めのシャフトにしてもたいしたことはなかった。バランスが悪くなるだけで、やはり筋力トレーニングだろう。高校時代は、30回できた懸垂運動だが、今は、2～3回しかできない。……情けない。

40歳代半ばの人は、注意したほうがよいでしょう。若い気でいるととんでもないことになってしまいますよ！

ゴルフが好きな理由は、プレー自体の面白さもそうだが、自然環境に触れ合うという楽しさもある。プレー中にカブトムシを見つけたり、小さな小川には、たまには、やまめが泳いでいる。秋には、栗、山ブドウ、キノコといったように、コースの移動のときには、目が山肌に向いている。私などよく、ボールを探して散策するほうだから、調子が悪いときは、プレーよりキノコ探しをやっていることが多い。北海道には、なかなかおいしいキノコが多い。特に、落葉松の下に生える落葉茸は素人にも探せるし、おいしい。みそ汁にこのキノコを5～6個入れるだけでも楽しみだ。

とにかくこのような理由で、ゴルフは楽しい。機会がありましたら、一緒にプレーしましょう！

次のリレートークは、後輩にあたる京都市工業試験場の大藪氏にお願いします。

皆様からのご寄稿をお待ちしています

「技能と技術」誌では、皆様からのご寄稿をお待ちしています。

教材開発や指導技法に関する実践報告、調査研究情報、国際協力の現状等、日頃の職業能力開発に関する成果をご紹介します。

また、5号（9月発行）の特集は、「最近の普通訓練の特徴」と「応用課程の訓練について」の2つのテーマです。併せて皆様のご寄稿よろしくをお願いします。 [編集部]

問い合わせ先 職業能力開発総合大学校

能力開発研究センター 普及促進室

TEL 042-763-9069 FAX 042-763-9048